



特集

# 思いがつながる 76.7MHz

開局から10年を迎えた登米コミュニティエフエム(通称・はっとエフエム)。  
最新の話や身近な情報のほか、災害時などの緊急情報を発信する役割も担っています。  
今号は、はっとエフエムの周波数「76.7MHz」に寄せられた思いを紹介します。

加藤有佳  
伊澤朋花

登米高  
2年3年



宮城県高総体代替大会  
カヌー競技

インターハイの中止が決まり3年生が引退していく中、女子では1人部活に残った加藤。2年生唯一の女子部員伊澤に「一緒に頑張ろう」と声を掛けた。

県高総体代替大会が決まり、2人はペアを組んだ。「加藤のリードで良い方向にまとまっていた」と工藤大将監督。一発決勝のレースは2位のまま終盤に差し掛かると加藤のスイッチが入る。「加藤が練習ではやらなかったピッチで漕いだのを伊澤がしっかり合わせ1位でゴールした姿には正直、感動した」と工藤監督は振り返る。加藤はシングルも1位。実力を見せつけた。加藤の背から学んだことを伊澤が引き継いでゆく。

小泉宗士

佐沼高3年



宮城県高総体代替大会  
陸上棒高跳び

昨年はインターハイで4位70センチと自己記録を更新した小泉。続く東北新人陸上競技選手権では早々に優勝を決め、4位81センチに挑戦した。小泉の体がバーの上空を捉える。惜しくもバーは落下し記録には残らなかったが、確かな手応えと自信が芽生えた。

県総体中止により小泉の挑戦の場は失われたものの、代替大会優勝で締めくくった。「心残りはあるが、競技を通して人前が苦手な自分を変えられた。良い環境で良い仲間と練習できたこと、代替大会を開催していただいたことなど、全てに感謝したい」。幾度となく感謝の言葉を重ねる小泉に、大人の自覚が垣間見えた。

## Zoom Up Tome 2020 Special

## 夏に挑む

菅原建伊藤諒  
後藤雅智佐々木勇人  
登米総合  
産業高3年



宮城県高総体代替大会  
アーチェリー競技

昨年、インターハイに出場した先輩の背を目にし、自分たちも必ず同じ舞台上上がると強く決心した。「自分たちは本番に弱いチーム」と冷静に分析していた部長の菅原。それを補うため、矢を射った数だけは他のどのチームにも負けないように、風雨の中でも練習を重ねた。大会当日は雰囲気飲まれないよう精一杯声を出し合った。納得いく射撃ではなかったものの、練習量が実を結び団体で優勝。個人でも全員が好成績を収めた。

「卒業後も全員アーチェリーを続ける予定なので、みんなで練習を続けていきたい」と、4人はそろって白い歯をのぞかせた。

藤原佳枝

佐沼高3年



宮城県高総体代替大会  
剣道競技 優秀選手賞

剣道を始めた中学からこれまで、思うような成績は残せていなかった藤原。それでも「練習が嫌だと思ったことは無い」と剣道への情熱は人一倍あった。「相手の動きに合わせて素早く打ち込めるのが自分の武器」。最後の試合に向け日々技を磨いた。代替大会は、勝っても負けても1試合だけ。静と動、攻め方を変えながら得意の面を2本決め圧勝。強さだけではなく、体の動き、技の美しさが総合的に認められ優秀選手賞に選ばれた。「剣道を通していろいろな人とのつながりができた。ここまでやってこられたのは周りの支えのおかげ。」周囲への感謝で高校最後の大会を振り返った。